

式 辞

本日ここに、令和四年度藤枝市立総合病院
献体者慰霊祭を挙げるにあたり、当院関係者一
同、謹んで哀悼の誠を捧げ、御霊の安らかならん
ことを心からお祈り申し上げます。

ご遺族の皆様、深いご理解のもと、医療・医
学の向上のため、献体にご協力をいただきました
その崇高な御心に対し、あらためて深甚なる敬意
と、感謝の意を表する次第であります。

不幸にして病に倒れ、尊いお命を落とされた
方々の病態を確かめ、診断の的確性や治療の効果
などを検証するためには、病理解剖はなくてはな
らない重要な医術であり、疾病の成り立ちや、よ
り良い治療方法を速やかに解き明かすための貴重
な手がかりに繋がるものと確信いたします。

一方、「生命の尊厳」に立ち戻り、自らが行った
診断や治療について、真摯に反省することも
医療人として重大な責務であると考えます。

私たち医療に携わる者は、常に病める方々への

共感を忘れず、病氣治癒への飽くなき挑戦をし続けなければなりません。

このことこそ、献体にご協力をいただいた多くの皆様の、そのご遺徳に報いるものと、思いを強くするところであります。

我々人類と病魔との壮絶な闘いに、終わりはありません。

これからも病理解剖が果たす役割を重く受け止め、多くの方々の医療・医学に対する切なる願いに、誠心誠意お応えしていく所存であります。

結びに、故人の御高德を偲びつつ、謹んで御霊のご冥福をお祈り申し上げ、慰霊祭の式辞といたします。

令和四年十月十二日

藤枝市立総合病院

院長 中村利夫